



ECO ACTION 21 環境経営レポート

期間:2022年6月～2023年5月



Clean Green 幸せ化学 Sustainable



さがみはら
SDGs
パートナー
さがみはら 2023 10月10日

Contents

1. 組織の概要	3
2. 対象範囲	3
3. 環境経営方針とTop Message	4
4-1. ZETTOC HISTORY	5
4-2. ZTCはどんな会社？	6
4-3. 何を作っている会社？	7
5. 環境経営目標(82期)	8
6. 環境経営計画と環境経営計画に 基づき実施した取組内容(82期)	9
7. 環境経営目標及び環境経営計画の 実施・取組結果とその評価(82期)	14
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(83期)	22
9. 環境関連法規	27
10. これまでの主な活動実績	28
10-1. さがみはらSDGs パートナー活動	28
10-2. 社内の安全衛生と健康経営活動	29
10-3. 太陽光発電設備導入(相模原事業所)	30
10-4. エコアクション21 研修	30
10-5. 社会貢献活動	30
10-6. 生物多様性の保全活動(絶滅危惧植物の保護活動)	35
10-7. 緊急事態への準備及び対応	37
11. 代表者による全体の評価と見直し・指示	38



造る力。



創る力。

ゼトック(ZTC)社名の由来

ZTC

Zeola

旧社名(日本ゼオラ)に因み、
口腔ケア製品群を表現

Toiletries

トイレタリー&コスメティック製品

Chemicals

化学製品・一般雑貨

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

会社の名称 日本ゼトック株式会社(NIPPON ZETTOC CO.,LTD.)
 代表者 代表取締役会長兼CEO 牧田 裕樹
 代表取締役社長兼COO 森山 正孝

(2) 所在地

<本社>

東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 新宿野村ビル12F
 TEL:03-5323-2020(代表) FAX:03-5323-3010(代表)

<相模原事業所>

神奈川県相模原市緑区大山町1番5号
 TEL:042-775-8700(代表) FAX:042-775-7012(代表)

<大阪営業所>

大阪府大阪市中央区安土町3丁目2番4号JUST本町ビル7F
 TEL:06-6262-6881(代表) FAX:06-6262-6601(代表)

<新生富山事業所>

富山県中新川郡上市町三日市22番地
 TEL:076-472-0380(代表) FAX:076-472-0339(代表)

(3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者:江尻 茂之
 TEL:03-5323-2020 FAX:03-5323-3010
 E-mail:ejiri@zettoc.co.jp

(4) 事業活動

医薬品・医薬部外品・医療機器・化粧品・雑貨の研究開発及び製造販売

(5) 事業規模

設立 1954年(昭和29年)2月12日
 資本金 9,600万円
 売上高 12,384百万円(82期/2022年6月1日~2023年5月31日)

	従業員数(人)	延床面積(m ²)
本社	63	572.28
相模原事業所	382	24,093.43
大阪営業所	2	70.60
新生富山事業所	30	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む(2023年5月31日時点)

2. 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

本社、相模原事業所、大阪営業所、新生富山事業所

(2) レポート対象期間及び発行日

レポート対象期間:2022年6月1日~2023年5月31日
 レポート発行日:2023年8月31日

3. 環境経営方針とTop Message

環境経営方針

【環境経営方針】

当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスをつかまえ、当社ミッション・ビジョン・パーパスを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを誓います。

【環境経営方針実現のための行動指針】

- ◆ 環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。
- ◆ 環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
 - ・ 電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組みます
 - ・ 産業廃棄物の削減を中心に、廃棄物排出量削減に取り組みます
 - ・ 上水、井水の排水状況を管理し、総排水量削減に取り組みます
 - ・ 当社で使用する化学物質の管理を徹底します
- ◆ 当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。
- ◆ ESG経営・SDGsを推進します。
- ◆ 環境経営方針を全従業員に周知します。
- ◆ 当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。

2023年8月29日 改定

日本ゼトック株式会社 代表取締役社長

森山正孝

我々日本ゼトックは、ミッション「私たちは人々の幸せと健やかなる未来を創造し、世界中に笑顔をお届けしてまいります」の理念を基に、創業以来約70年に亘り多種多様な製品を皆様にお届けしてまいりました。

国内では、創業当時より、高機能な口腔製剤・歯磨きのODM・OEMを中心にシェア拡大に努め、近年では化粧品ODM・OEM分野にも参入する等、ODM・OEM事業を中心に発展に努めてまいりました。また同時に当社の研究・開発力を活かし化粧品自社ブランドの構築に努め、近年では保湿スキンケア化粧品「ヘパトリート」が市場で注目を集めております。

海外では、中国に現地法人を置く等、中華圏ASEAN諸国を中心に、世界中の皆様の健康に寄与できる存在となれるよう努めております。

当社は今後もお客様の健康を実現する為に、長年にわたり培ってまいりました技術力と開発力を駆使し、独創的で多様な製品開発と更なる品質の向上を目指し、皆様から信頼される企業としてサステナブルな貢献をしてまいります。

代表取締役社長兼COO

森山 正孝

幸せ化学
Clean Green Sustainable



4-1. ZETTOC HISTORY

科学の力で、人に笑顔を…それを実践してきた歴史です。

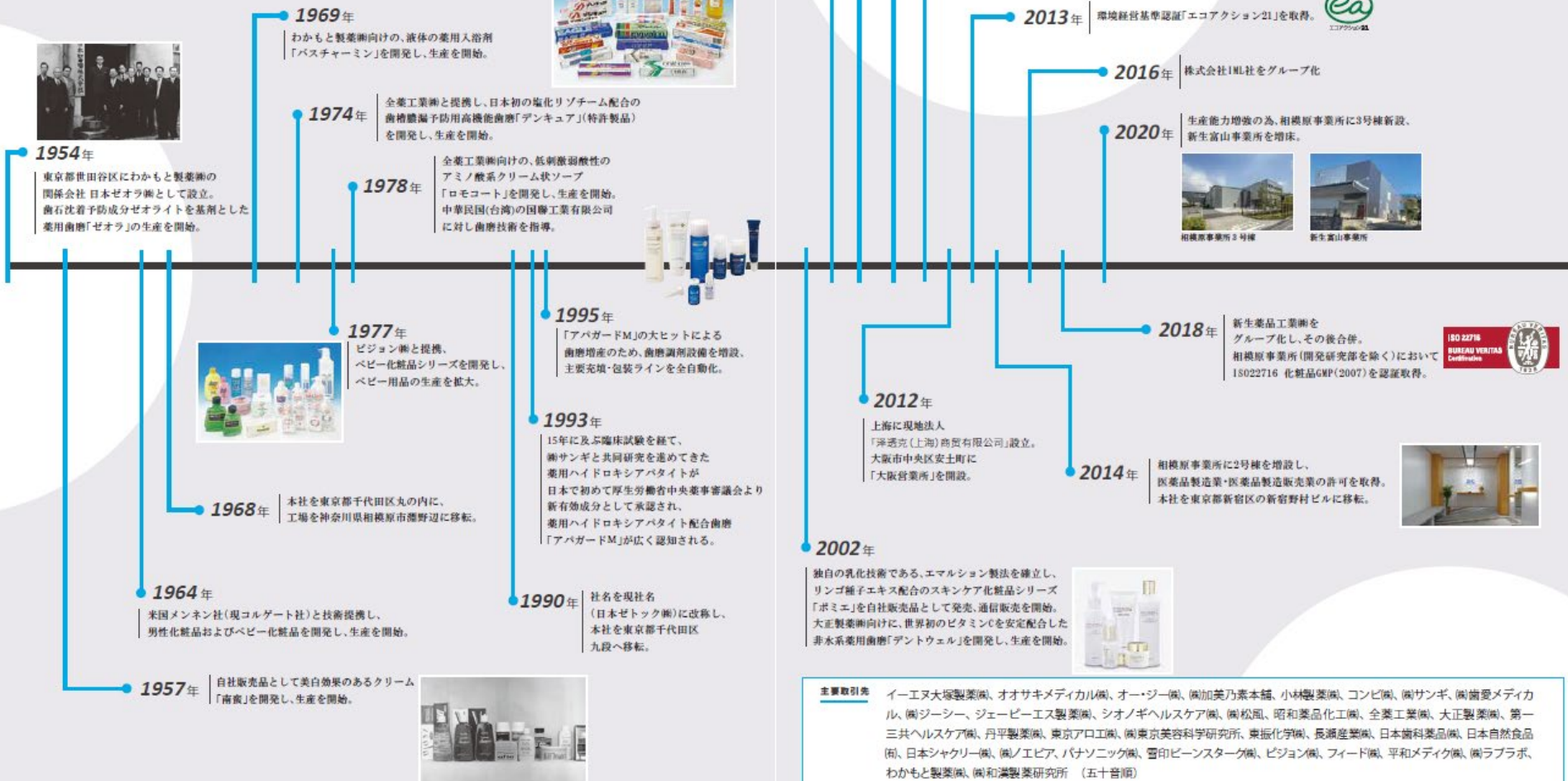
研磨剤によってではなく、ゼオライトが持つイオン交換作用により、口腔内をケアし、歯を美しく保つ……。

創業のきっかけとなった薬用歯磨「ゼオラ」で買かれた

「科学の力による効能の発見と証明」と

「効能を広く人々に提供していくためのモノづくり」へのこだわりは

今も日本ゼトックに受け継がれています。



- 主要取引先**
- イーエヌ大塚製薬㈱、オオサキメディカル㈱、オーゾー㈱、(株)加美乃素本舗、小林製薬㈱、コンビ㈱、(株)サンギ、(株)歯愛メディカル、(株)ジーシー、ジェービーエス製薬㈱、シオノギヘルスケア㈱、(株)松風、昭和薬品化工㈱、全業工業㈱、大正製薬㈱、第一三共ヘルスケア㈱、丹平製薬㈱、東京アロ工㈱、(株)東京美容科学研究所、東塩化学㈱、長瀬産業㈱、日本歯科薬品㈱、日本自然食品㈱、日本シャクリー㈱、(株)エピア、パナソニック㈱、雪印ビーンスターク㈱、ビジョン㈱、フィード㈱、平和メディカ㈱、(株)ラブラボ、わかもと製薬㈱、(株)漢製薬研究所 (五十音順)

4-2. ZTCはどんな会社？

“明るく幸せな毎日は健康であることが基本である”を念頭に
さまざまな製品を送り出してきた日本ゼトック。
イオン交換作用をもつゼオライトを配合した薬用歯磨「ゼオラ」から始まった歴史からもうかがえるように、
日本ゼトックが一貫して堅持してきたのは、「科学の力で効能を実現する」との企業姿勢。
地道で粘り強い基礎研究により新しい材料を発見し、
効能を実現する製品化を進め、品質や効き目を徹底的に追求。
さまざまな口腔ケア製品および化粧品をOEMや自社ルートを通じ、国内外のお客さまにお届けしてきました。
商品を通じ、一人ひとりを笑顔にしたい。
たくさんの人々の笑顔を通じ、世界そのものを笑顔にしたい……
そうした願いは今も、そしてこれからも変わりません。

取扱品

口腔ケア製品

ボディケア製品

フェイシャルケア製品

ヘアケア製品

その他
(薬用洗剤、抗菌洗剤など)



4-3. 何を作っている会社？

お口の健康を守るハミガキ剤など
みなさんの生活に必要な製品を作っています。



私たちの仕事

私たちは、みなさんの歯を守るハミガキ剤をはじめ、人々の健康や清潔を保つために大切な、医薬品、スキンケア、ヘアケアなどのODM製品を作っている会社です。より良い製品を作るために、「どんな原料を使えばよいか」「何と何を混ぜると効果があるか」など、製品の設計づくりから行っています。みなさんが幸せで健康な未来を過ごすための製品を、国内や世界中へ届けています。

BUSINESS ITEM

より多くの人に、より大きな笑顔。そのための3事業です。

より多くの人に、より大きな笑顔をつくってもらいたい。
そのためには一つの事業、一つのチャンネルでは限界があります。

そこで日本ゼトックは
これまで培ってきた技術力と実績をベースに、
「OEM」「自社販売」「海外」という3つの事業を展開。
より多様なチャンネルで、より多くの人々関わっていきます。

日本ゼトック・事業アイテム

OEM事業

OEMを超えたODM
およびOMMで
お取引先様の商品戦略を
トータルにサポートします。



自社販売事業

機能性化粧品や
機能性口腔ケア商品を
店頭販売や通信販売を
通じてお届けします。

海外事業

自社の機能性口腔ケア商品、
機能性化粧品、OEM商品を
よりグローバルに提供します。

5. 環境経営目標(82期)

事業所	項目	目標
 本社	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減(kg)、再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、段ボール、古新聞)の削減(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	CSR活動の実施
 相模原事業所	CO2排出量	電力使用量の現状維持と原単位削減(kWh)、ガス使用量の現状維持と原単位削減(m3)、ガソリン使用量の現状維持と原単位削減(L)、軽油使用量の現状維持(L)、CO2排出量の現状維持と原単位削減(t)
	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減(kg)、廃プラスチック類量と原単位削減(kg)
	上水使用量	上水使用量と原単位削減(m3)
	下水排出量	下水道排水量と原単位削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の実施
	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う



新生富山事業所



大阪営業所



本社



相模原事業所

事業所	項目	目標
 大阪営業所	CO2排出量	電力使用量の維持(kWh)、CO2排出量の維持(t)
	上水使用量	上水使用量の維持(m3)
	廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解廃棄、ペットボトル)の削減または維持(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
 新生富山事業所	製品開発	環境に配慮した製品の開発
	CO2排出量	電力使用量の把握(kWh)、LPG使用量の把握(m3)、ガソリン使用量の削減(L)、CO2排出量の把握(t)
	廃棄物量	廃プラスチック類の量の把握(kg)
	上水使用量	上水使用量の把握(m3)
	下水排出量	下水使用量の削減(m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の把握:PRTR制度対象物質(kg)
	物質使用量	コピー用紙の削減(枚)
	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施

6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(82期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施を徹底する	○
			使っていない電気機器の電源オフを実施する	◎
			周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める	◎
			NO残業ダイの徹底(最終消灯21:00厳守)	◎
2	廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類)の削減 再資源廃棄物(機密書類溶解廃棄、シュレッダー、 段ボール、古新聞)の削減	排出量の現状把握と管理	◎
			使用済封筒・可能な裏紙の再利用	○
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP	△
			ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為の施策を実施	○
			据え付け紙コップ使用を最小限に留める。マイボトル、マイ水筒等を使用する	◎
3	物質使用量	コピー用紙の削減	仕出し弁当を開始し、お弁当箱のリユース	△
			使用量の現状把握と管理と、周知の徹底	◎
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			両面、集約等の機能を有効活用	◎
4	CSR活動	CSR活動の実施	印刷した印刷物を必ず回収する	○
			自社発信の活動への参加を検討する	○
			野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地域におけるCSR活動への参加も検討する	○

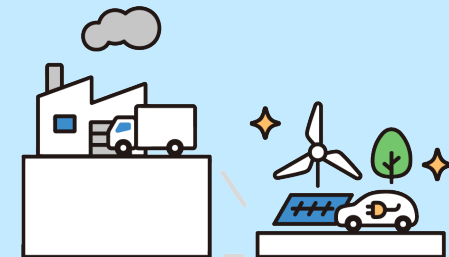
◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要
※本社では、化学物質の使用はなく、上下水量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない



本社

SDGs(持続可能な開発目標)って何?

SDGs(持続可能な開発目標)は、全世界が共に取り組むべき17の目標で、それぞれに具体的なターゲットが設定されています。これらの目標は、貧困の撲滅から健康と福祉の向上、教育の普及、ジェンダー平等の実現、気候変動の対策など、人々の生活と地球環境の両方を改善することを目指しています。企業がSDGsの目標を達成するための活動を行うことで、社会貢献を果たすだけでなく、新たなビジネスチャンスを見つけることも可能です。私たちは日常生活の中で地球環境を考える行動を取ることで、SDGsの目標達成に貢献することができます。



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(82期)

項目		環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の現状維持と原単位削減	共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季20℃)	○
		ガス使用量の現状維持と原単位削減	不在時の消灯実施	◎
		ガソリン使用量の現状維持と原単位削減	空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄	◎
		軽油使用量の現状維持	コンプレッサーのエアリーク箇所の改善	△
		CO2排出量の現状維持と原単位削減	社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)量と原単位削減	太陽光発電の活用	◎
			残バルクの低減	◎
			ロットアウトの低減・改善	○
		廃プラスチック類量と原単位削減	汚泥のリサイクル(セメント)の実施	◎
			再資源化の検討	◎
3	上水使用量	廃プラスチック類のコンパクト化	◎	
		プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施	◎	
4	下水排水量	効率的なバルク製造	○	
		節水の実施	◎	
5	化学物質の管理	効率生産による洗浄回数改善	○	
		節水の実施	◎	
6	物質使用量	化学物質使用量の現状維持:PRTR制度対象物質	◎	
		コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
7	生物多様性保全活動	ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	○	
		地域活動に参加	○	
8	製品開発	生物多様性保全活動の実施	相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富山事業所への展開	◎
		製品開発において環境に配慮した施策を行う	従業員への啓蒙	◎
			環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	◎
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	◎
環境に配慮した製品仕様を検討する	◎			
SDGsに関する勉強会に参加する	◎			



相模原事業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(82期)

項目		環境経営計画	取組内容
1	CO2排出量	電力使用量の維持	◎
		CO2排出量の維持	◎
			○
2	上水使用量	上水使用量の維持	◎
			◎
3	廃棄物量	最終処分廃棄物(一般ごみ・紙類、機密書類溶解廃棄、ペットボトル)の削減または維持	◎
			○
			◎
			○
4	物質使用量	印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			◎
			◎
			○
5	製品開発	環境に配慮した製品の開発を行う	◎
		取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	○
		環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	○
		環境に配慮した製品仕様を検討する	○

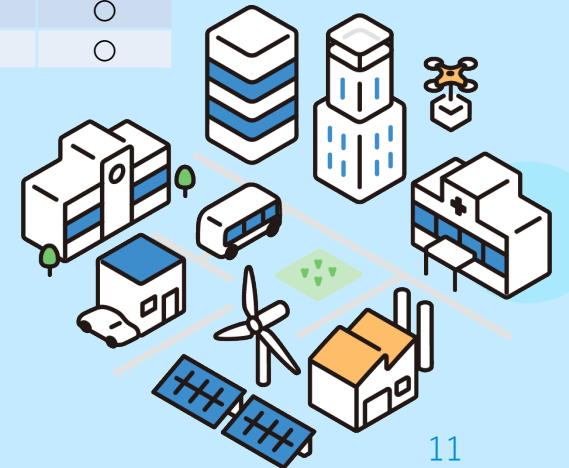
◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要
※大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない

■地球を守る企業の役割:VUCA時代とSDGsを意識した経営

VUCAとは、「Volatility(変動性)」「Uncertainty(不確実性)」「Complexity(複雑性)」「Ambiguity(曖昧性)」何が起るか予想がつかない、という単語の頭文字を取った言葉で、【予測が困難な状況】を指します。例えば、SNSで情報があふれていることや、新型コロナウイルスのような予想外の出来事が起こることなどがそれに当たります。このような時代をうまく生き抜くためには、SDGs(持続可能な開発目標)を意識した経営をすることが大切だと言われています。つまり、地球環境を保護しながら、社会が公平で豊かになるようにビジネスを展開する方法を考えることが、これからの時代は大切になります。



大阪営業所



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(82期)

	項目	環境経営計画	取組内容	
1	CO2排出量	電力使用量の把握	不在時と休憩時間の消灯実施	◎
		LPG使用量の把握	使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
		ガソリン使用量の削減	夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
		CO2排出量の把握	社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物量	廃プラスチック類の量の把握	再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測定し、記録する	◎
3	上水使用量	上水使用量の把握	節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し記録する	◎
4	下水排出量	下水使用量の削減	節水に心がけつつ、下水道排水量を毎月測定し記録する	○
5	化学物質の管理	化学物質使用量の把握:PRTR制度対象物質	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、記録する	◎
			印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
6	物質使用量	コピー用紙の削減	両面・集約等の機能を活用する	○
			ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	○
				○
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	周辺地域のゴミ拾い活動をする	◎

◎:実績に繋がる取組ができた、○:取組ができた、△:取組が不十分だった、×:取組が不十分で来期は工夫が必要



新生富山事業所

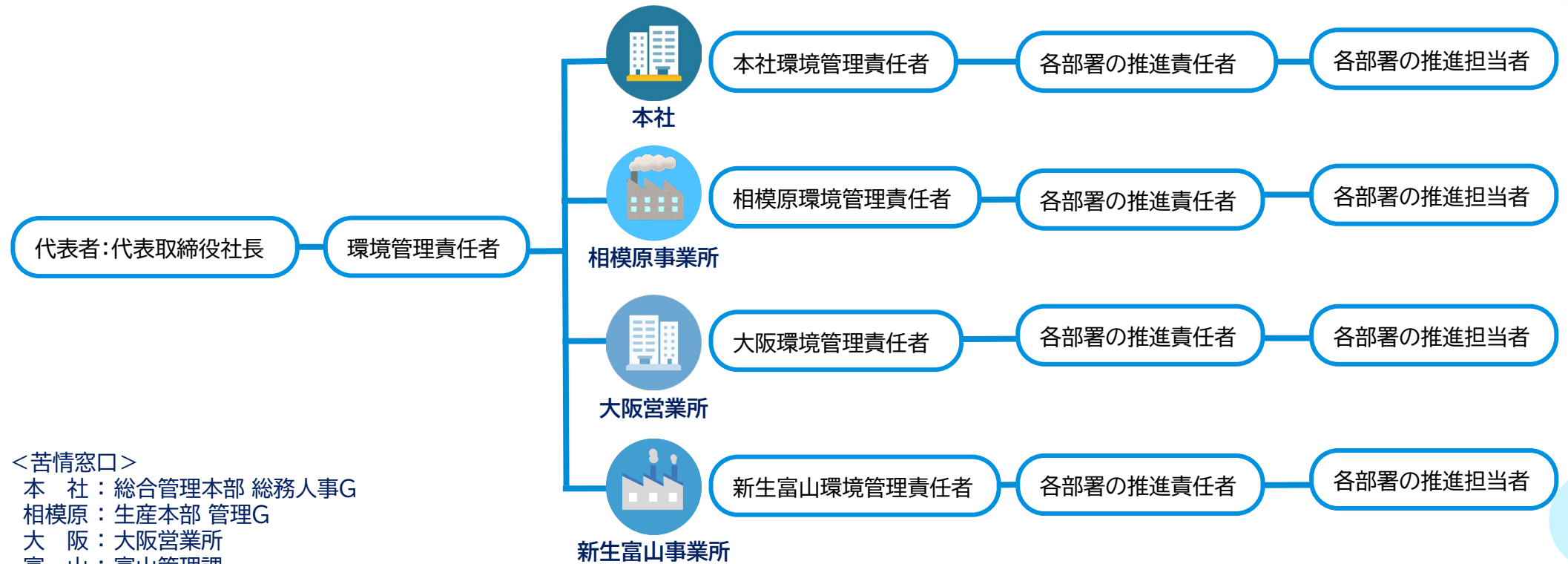
■地球を守る企業の役割:環境への配慮がもたらす成長と持続可能性

緑豊かな森、青い海、美しい星空……。これらは私たちが生きていく上で欠かせない自然の恵みです。しかし、地球温暖化や環境破壊など、地球の環境は危機に直面しています。その中で、企業が環境に配慮した活動を行うことが、ますます重要になってきています。消費者や協力会社は、企業がどれだけ利益を出しているかだけでなく、環境にどれだけ配慮しているかも評価の基準としています。企業が社会的な信頼を得るための重要な手段となります。また、環境に配慮した商品やサービスは、消費者からの需要が高いため、新たなビジネスのチャンスを生み出す可能性があります。そして何より、企業の活動は地球全体のCO2排出量の大部分を占めています。そのため、企業がCO2排出を削減することは、地球温暖化などの環境問題を直接的に解決することにつながります。企業が環境に優しい活動を行うことは、企業自体の成長と地球の持続可能性を同時に支える大切な役割を果たします。私たち一人一人も、日々の生活の中で環境に配慮した行動を心掛けることで、地球を守ることに貢献できます。地球は私たちの唯一の故郷です。だからこそ、私たちは地球を大切に、次の世代に美しい地球を残す責任があります。それぞれの立場で、地球を守るための行動を起こしましょう。



6. 環境経営計画と環境経営計画に基づき実施した取組内容(82期)

(エコアクション21推進組織図)



<苦情窓口>
 本 社：総合管理本部 総務人事G
 相模原：生産本部 管理G
 大 阪：大阪営業所
 富 山：富山管理課

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆エネルギー		電気使用量(kWh)								
		78期(基準年)	目標値			82期実績				
					使用量		購入量			
開	本社	総量	27,980	27,980	維持	26,370	△5.7%	—	—	目標達成
	相模原	総量	5,006,909	5,006,909	維持	6,243,730	⬆24.7%	5,606,095	⬆12.0%	目標未達
		原単位	0.0487	0.4626	△5%	0.0518	⬆6.4%	0.0465	△4.5%	目標未達
	大阪	総量	6,427	6,106~6,748	±5%	6,549	⬆1.9%	—	—	目標達成
	富山	総量	868,332	824,906~868,332	95%~100%	837,577	△3.5%	—	—	目標達成

相模原事業所では、前期の9月から太陽光発電設備を設置しました！
 今期は1年通して自家発電ができました。
 <自給率は、約10%!>

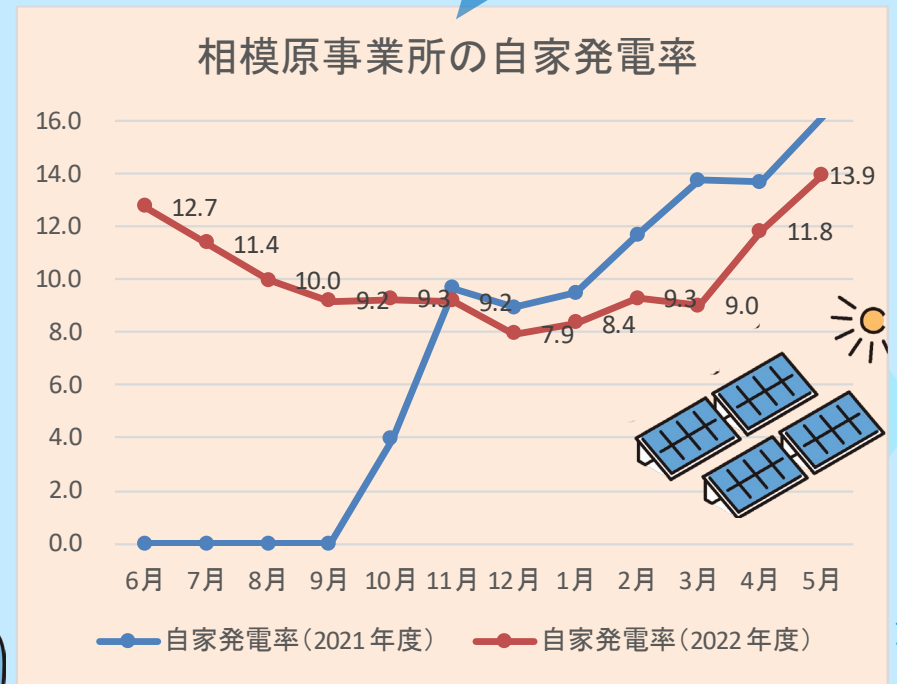
本社
 前期より引き続き、時差出勤の実施下での測定になりました。コロナ禍以前に実施していた昼食時の一斉電気消灯等は実施が困難となっているものの、不在室の消灯実施や残業ルールの徹底、社内TV・PCなどの省エネモードの意識の浸透により、電力使用量・二酸化炭素排出量共に目標達成となりました。引き続き使用量の低減に努めていきます。

新生富山事業所
 82期は、80期と比較して電力使用量を減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、電気使用量の削減に努めていきます。

相模原事業所
 82期の電気使用量は基準年78期と比較して24.7%の増加となっています。82期は新棟の生産ラインが1ライン増えたことにより生産数量が増加し、電気量が増加したと考えます。製品1本当たりの電気使用量に換算すると78期比は6.4%の増加となります。
 81期10月より太陽光発電設備を設置し、82期は6月より1年間稼働しています。82期の購入電力量で比較すると、78期比は12.0%増加となりますが、製品1本あたりの購入電気量は78期比4.5%減少しています。83期は共有部を中心に照明器具の点灯時間を調整し、電力削減に努めて行きます。

大阪営業所
 82期活動において、電気使用量の削減を徹底しました。目標達成はしていますが78期より使用量増加しているため、今後更なる削減に努めていきます。

不必要な電気機器の使用を控えたり、不要な照明をこまめに消したり、エアコンの適正な使用を心掛けたり…、各部門で電力消費の削減に向けた活動に取り組みました。今後も継続して、節電への意識を高めることが大切です。



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆エネルギー		ガス使用量(m3)				
		78期(基準年)	目標値		82期実績	
相模原	総量	271,886	271,886	維持	364,541	↑34.1% 目標未達
	原単位	0.0264	0.0251	△5%	0.0302	↑14.4% 目標未達
富山	総量	37,192	35,332~ 37,192	95%~ 100%	32,944	△11.4% 目標達成
◆エネルギー		ガソリン使用量(L)				
		78期(基準年)	目標値		82期実績	
相模原	総量	383	383	維持	536	↑39.9% 目標未達
	原単位(×10 ⁻⁶)	3.72	3.54	△5%	4.45	↑19.6% 目標未達
富山	総量	1,106	1,073	△3%	523	△52.7% 目標達成
◆エネルギー		軽油使用量(L)				
		80期(基準年)	目標値		82期実績	
相模原	総量	1,491	1,491	維持	1,957	↑31.3% 目標未達



相模原事業所

82期都市ガス使用量は基準年78期と比較して34.1%の増加となっています。新棟の生産ラインが増えたことにより生産数量が増え、ガスの使用量が増加したと考えます。製品1本当たりのガス使用量に換算すると78期比は14.4%の増加となります。82期もガスの削減に努めていきます。

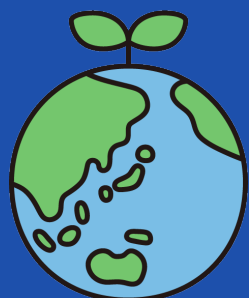
82期のガソリン使用量は基準年78期と比較して39.9%増加しています。官公庁や大学訪問など外出業務が増えたことが要因と考えます。製品1本当たりの使用量に換算すると78期比は19.6%増加となります。軽油の使用量については、80期と比較して31.3%増加されました。生産数量の増加により2台目のトラックを導入し、外部倉庫への製品移動が増えたことが要因と考えます。



新生富山事業所

82期は、80期と比較してプロパンガスの使用量を減らすことができました。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、プロパンガスの使用量削減に努めていきます。

82期のガソリン使用量は523Lで、80期と比較しまして52.71%削減となり目標達成となっております。エコドライブを推進してガソリン使用量の継続的な削減に努めていきます。



地球を守るためのエコ活動、それは私たち一人一人の生活から始まる

私たちがつくる様々な製品は、化石燃料を使って製造され、運ばれています。これにより、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が大量に排出されています。この問題を少しでも解決するために、私たちはエコアクション21を通して、様々な取り組みを行っています。化石燃料の使用を減らし、二酸化炭素の排出を抑えることは、地球の未来を守るための大切なステップです。ZTCでは、太陽光などの再生可能エネルギーの利用に取り組んでいます。これらの取り組みには初期投資が必要ですが、長期的にはエネルギーコストが削減され、企業にとっても利益になります。また、地球温暖化防止に取り組むことは、企業が社会に対して果たすべき責任でもあります。今後も、効率的な設備の導入、製造工程の改善などの検討に取り組むことが大切です。しかし、地球を守るためには、大規模な工場だけでなく、私たち一人一人の行動もとても重要です。私たち一人一人がエネルギーを節約することで、地球温暖化を遅らせることができます。また、資源を有効に使うことやコスト削減にもつながります。だからこそ、毎日の生活でエネルギーを無駄遣いしないように心掛けることは、地球環境保護の活動の重要な一部と言えます。「地球を守るためのエコ活動」それは私たち一人一人の生活から始まります。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆二酸化炭素排出量(t)

		78期(基準年)	目標値		82期実績		
本 社	総 量	14.85	14.85	維持	13.48	△9.2%	目標達成
	相模原						
相模原	総 量	2,885	2,885	維持	3,370	↑39.9%	目標未達
	原単位(×10 ⁻⁵)	2.81	2.67	△5%	2.80	↑19.6%	目標未達
大 阪	総 量	2.15	2.039~2.254	±5%	2.19	↑1.9%	目標達成
富 山	総 量	703	668~703	95%~100%	607	△13.7%	目標達成



相模原事業所

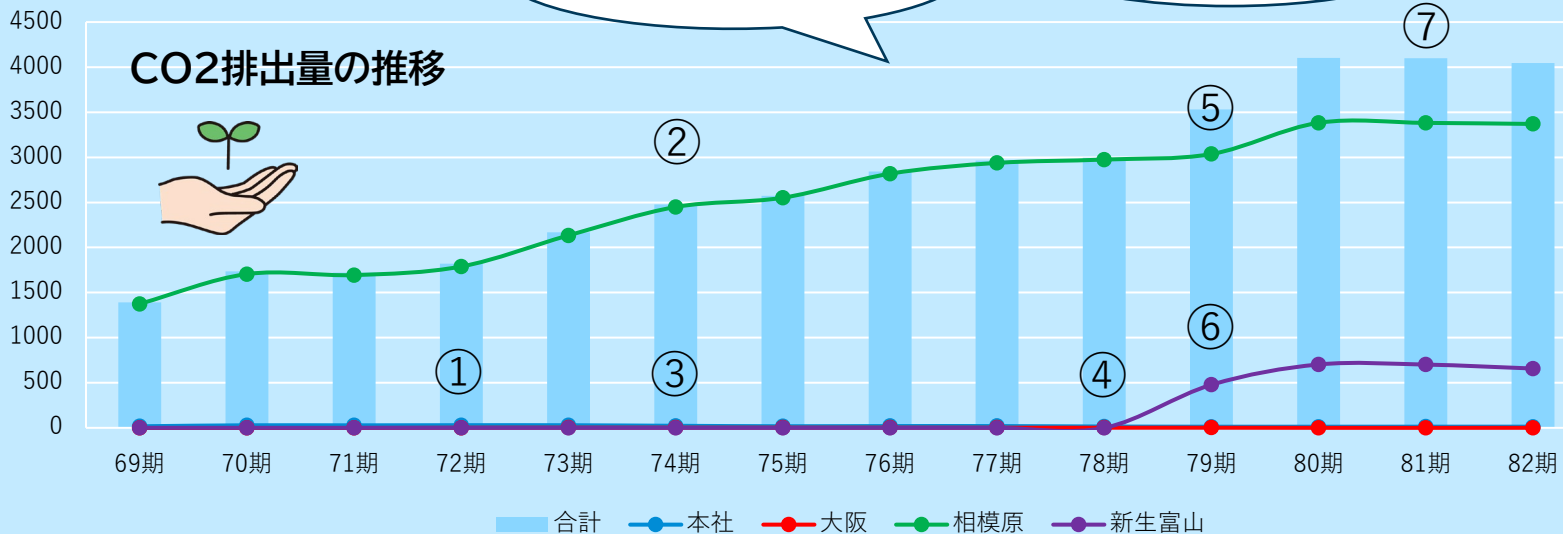
82期の二酸化炭素排出量は基準年78期と比較して16.8%の増加となっています。太陽光発電設備を設置し、自家発電を行い、購入電力量の削減を試みましたが、新棟の生産ラインが増えたことにより生産数量が増加し、二酸化炭素排出量を削減することはできませんでした。

製品1本当たりの排出量に換算すると78期比は0.4%減少となります。80期の排出量と比較すると太陽光発電設備により排出量は80期比は約13t削減、81期比は約12t削減されています。引き続き電気、ガス、ガソリン、軽油使用量の低減に努めていきます。



新生富山事業所

82期は、80期と比較して二酸化炭素排出量は減らすことができました。



- ① 72期(2012年) 大阪営業所開設
- ② 74期(2014年) 相模原事業所増設(2号棟)
- ③ 74期(2014年) 本社を九段下から新宿に移転し増床
- ④ 78期(2018年) 新生薬品工業と合併し、新生富山事業所に改名
- ⑤ 79期(2019年) 相模原事業所増設(3号棟)
- ⑥ 79期(2019年) 新生富山事業所を増築
- ⑦ 81期(2021年) 相模原事業所に太陽光発電設備を設置

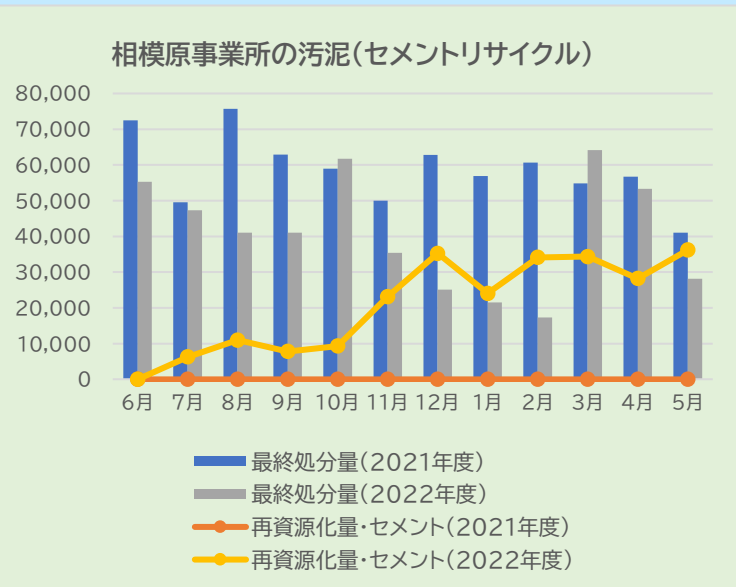
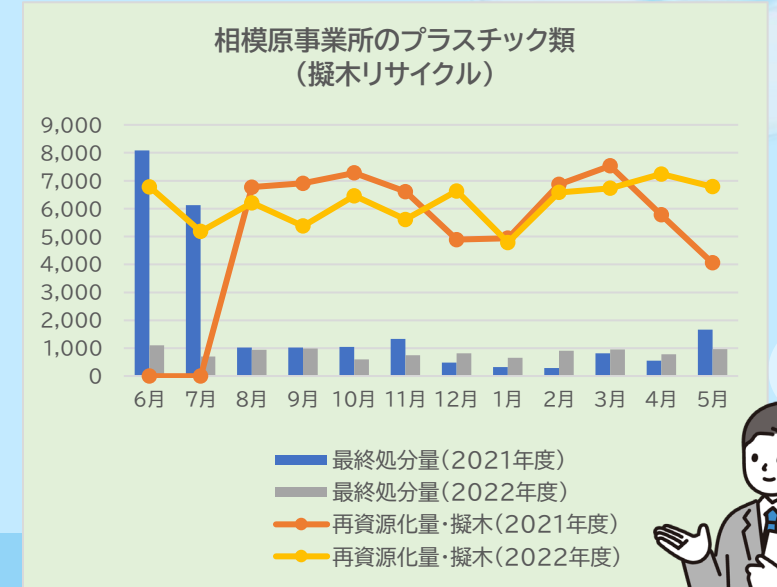
◆二酸化炭素排出係数(電気は調整後)
 <本 社>電気:0.000455t/kWh、ガソリン:0.00232t/L
 <相模原>電気:0.000455t/kWh、ガス:0.00223t/m³、ガソリン:0.00232t/L、
 軽油:0.00258t/L
 ※県及び国への定期報告については2020年を基準年として報告しています
 <富 山>電気:0.000527t/kWh、ガス:0.00655t/m³、ガソリン:0.00232t/L
 <大 阪>電気:0.000334t/kWh

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆廃棄物		廃プラスチック(kg)					
		78期(基準年)	目標値	82期実績			
相模原	総量	123,255	24,651	△80%	10,180	△91.7%	目標達成
	原単位(×10 ⁻³)	1.20	0.240	△80%	8.00	△99.3%	目標達成
富山	総量	-	測定・把握	-	1,415	-	目標達成

◆廃棄物		汚泥(kg)					
		78期(基準年)	目標値	82期実績			
相模原	総量	660,790	627,750	△5%	491,271	△25.7%	目標達成
	原単位(×10 ⁻³)	6.43	5.91	△8%	4.08	△36.5%	目標達成

◆廃棄物		一般廃棄物(kg)					
		78期(基準年)	目標値	82期実績			
本社	最終処分	1,801	1,711	△5%	2,191	△31.2%	目標達成
	再資源化	3,353	3,185	△5%	1,381	△19.3%	目標達成
大阪	総量	434	412~434	95~100%	140	△67.7%	目標達成



本社



掲示等を通しての意識啓蒙により、再資源化廃棄物・最終処分廃棄物ともに目標達成しました。今後も引き続き、SDGs推進の一環として、ゴミ削減の意識付け、再資源化の推進を行っていきます。

相模原事業所



82期の汚泥排出量は78期より25.7%減少しています。昨年の11月よりリサイクル業者に依頼してセメントに再生したことが廃棄量の削減となりました。製品1本あたりに換算すると36.5%削減となります。

82期の廃プラスチック類排出量は78期より91.7%減少しています。リサイクル業者に依頼して擬木に再生したことが廃棄量の削減となりました。製品1本あたりに換算すると78期比は99.3%削減となります。83期も継続して削減活動を実施していきます。

新生富山事業所



82期は廃プラスチック類排出量の測定記録を実施いたしました。

大阪営業所



ゴミの分別、削減に努めた結果、78期と比較すると処分量は減少しました。今後も現状維持に努めていきます。



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆上下水		上水使用量(m3)					
		78期(基準年)	目標値		82期実績		
相模原	総量	25,666	24,383	△5%	29,196	↑13.8%	目標未達
	原単位(×10 ⁻⁴)	2.50	2.37	△5%	2.40	△4.0%	目標未達
大阪	総量	23	21.9~24.2	±5%	21	△8.7%	目標達成
富山	総量	2,600	2,470~2,600	95~100%	2,282	△12.2%	目標達成
◆上下水		下水道排出量(m3)					
		78期(基準年)	目標値		82期実績		
相模原	総量	47,114	44,758	△5%	56,820	↑20.6%	目標未達
	原単位(×10 ⁻⁴)	4.58	4.35	△5%	4.71	↑2.8%	目標未達
富山	総量	2,778	2,639~2,778	95~100%	3,385	↑21.9%	目標未達



相模原事業所

上水:82期は基準年78期と比較し13.8%増加となっています。新棟の生産ラインが1ライン増えたことにより生産数量が増加したためと考えます。製品1本当りに換算すると78期比は4.0%削減となります。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる上水使用量の低減を図ります。

排水:82期は基準年78期と比較し下水道排出量は20.6%増加となっています。生産数量の増加により洗浄回数が増えたことが要因と考えます。製品1本当りに換算すると78期比は2.8%増加となります。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる下水道排水量の低減を図ります。



「上水」とは？

「上水」は、私たちが飲む水や、工場で使う水のことを指します。雨や雪が降って、ダムや湖に溜まり、その後、浄水施設で処理されて、安全な水である「上水」になります。この水は、ポンプで各地の配水池に送られ、家庭や学校、工場に届けられます。



「上水」を使用する際に大切なのは、「節水」を心がけることです。水は貴重な資源で、無駄遣いすると地球に悪影響を及ぼします。節水することで、エネルギーを節約し、地球温暖化を防ぐことができます。また、節水するとお金も節約できます。

だからこそ、私たちの生活だけでなく、工場でも節水を心掛ける必要があります。

「上水」は私たちの生活や工場の生産を支えるシステムを指し、「節水」はそのシステムを効率的に利用するための大切な取り組みです。



大阪営業所

82期活動において、上水使用量の削減を徹底しました。目標達成はしているが前期より使用量増加しているため、今後も削減に努めていきます。



新生富山事業所

上水:基準年度と比較して約12.23%削減となっており目標達成となっています。
排水:下水排水量ですが基準年度比で増えています。80期に比べ生産量が増加したことが要因と思われます。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆化学物質の管理

		78期(基準年)	目標値		82期実績		
相模原	フッ化水素及びその水溶性塩	16,693kg	16,693kg	±0%	22,777kg	⬆36.4%	目標達成
	ドデシル硫酸Na	76,575kg	76,757kg	±0%	67,536kg	△11.8%	目標達成
	ポリオキシエーテル	0kg	0kg	±0%	増減なし	±0%	目標達成
富山	ドデシル硫酸Na	59kg	56.05~59.00kg	95%~100%	30.33kg	△48.59%	目標達成

PRTP法とは、化学物質がどれだけ環境に排出されたかを事業者が自分で把握し、それを国に報告する制度のことです。PRTP法対象物質の使用量を把握し、適切に管理することは、環境保護にとって非常に重要です。これらの物質の使用を適切に管理することで、環境への影響を最小限に抑えることができます。



相模原事業所

フッ化水素及びその水溶性塩については78期比36.4%増加となっています。ドデシル硫酸ナトリウムについては78期比11.8%削減となっています。フッ化水素及びその水溶性塩に関してはフッ素入り歯磨の生産量増加が要因と考えます。ポリオキシエーテルは今期も使用しておりません。これからもPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。



新生富山事業所

ドデシル硫酸ナトリウムを使用した製品の製造ロットの減少で使用量が削減しました。これからもPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していきます。

◆物質使用量/コピー用紙(枚)

		78期(基準年)	目標値		82期実績		
本社	総量	239,000	227,050	△5%	148,000	△35.0%	目標達成
相模原	総量	897,500	807,750	△10%	912,500	⬆1.7%	目標未達
大阪	総量	14,795	13,315	△10%	5,011	△66.1%	目標達成
富山	総量	85,000	82,450	△3%	99,000	⬆16.5%	目標未達

紙節約のため以下を心がけました。

1. 両面印刷
2. デジタル化
3. プレビュー利用
4. 余白最小化
5. 再利用



本社

掲示による意識付け、また昨今の書類電子化の影響もあり、前期より引き続いての目標達成となりました。

相模原事業所

82期のコピー用紙使用量は、78期比は7%増加となっています。但し80期比5.9%減少、81期比は2.1%減少しています。Web会議等でペーパーレス化を実施した効果により使用枚数が減少したと考えます。83期もペーパーレスの推進活動に努めていきます。

新生富山事業所

82期のコピー用紙使用量は、80期と比較して14,000枚増加してしまいました。規定書及び手順書の改訂を行ったこと、記録類が増加したためと考えます。今後は印刷物を必要最低限の部数に留める、両面・集約等の機能活用、ペーパーレスの推進等を行い、使用量の低減に努めたいと思います。

大阪営業所

78期と比較するとコピー用紙の使用量は66.1%減少した。これは、PDF化など用紙の削減を推進した結果だと考えられます。引き続き削減に努めていきます。

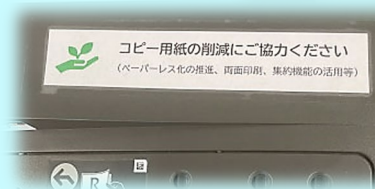
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆生物多様性／CSR活動

		目標値	82期実績	
本社	CSR活動	CSR活動	80期～82期で提案・実施3件	80期～82期で提案・実施3件 目標達成
相模原	生物多様性	生物多様性保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動「柴胡の会」に参加 ・ミシマサイコの苗を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動はコロナの為、参加を断念 ・相模原事業所で栽培実施 ・新生富山事業所、本社で栽培実施 目標未達
富山	CSR活動	近隣地域のゴミ拾い活動	4回/年	4回/年 目標達成



本社



<本社:CSR活動>

82期は、本社の従業員が環境についてより意識を持つようにするための啓蒙活動として、本社で使われるコピー用紙の使用量を掲示し始めました。



相模原事業所



<相模原:生物多様性>

82期もコロナ対策のため、ミシマサイコに関連する月1回の地域活動「柴胡の会」には参加できませんでした。しかしながら、事業所内においてはミシマサイコの種まき・育成・栽培を今年も行い、10月には従業員の希望者に苗を配布し保全活動を実施致しました。さらに、今期は新生富山事業所と本社でも栽培を開始し、活動範囲を広げ啓蒙活動を行っています。



新生富山事業所



<新生富山:CSR活動>

82期の「ゴミ拾い活動」は4回行いました。季節の影響(真夏や真冬の気温、天候)により4回に留まっています。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果とその評価(82期)

◆環境に配慮した製品開発

		目標値	82期実績	
相模原	製品開発において環境に配慮した施策を行う	80期～82期:合計7件実施	80期～82期で26件実施	目標達成
大阪	環境に配慮した製品の開発	80期～82期:合計3件実施	80期～82期で5件実施	目標達成

相模原事業所

今期、私たちは環境に配慮した商品を20種類開発しました。その中には、店頭広告(POP)を使わない商品が14種類、歯磨き粉のチューブを環境に優しい素材(モノマテリアルPBL)に変更したものが4種類、そして歯磨き粉のパッケージに使うインクを揮発性有機化合物(VOC)を含まないものにしたものが2種類あります。これからも、さまざまな観点から環境に配慮した商品開発を進めていきます。

「モノマテリアルPBL」は、製品の材料が「一種類だけ」で作られていることを意味します。PBLは「プラスチックバリアラミネート」の略で、とても強くてもやかなフィルムのことを指します。この素材はリサイクルしやすいです。

製品を一種類の素材で作ることで、リサイクルするときに素材ごとに分ける必要がなくなり、リサイクルが簡単になります。これは環境問題の解決につながります。しかし、従来の複数の素材で作られていた製品の機能を保ちつつ、一種類の素材で作ることは技術的に難しい課題です。



大阪営業所

今期、森林の保全に配慮したFSC認証の箱を使った製品を3つ作りました。FSC認証は、森林が適切に管理されていることを証明する国際的な制度です。これにより、私たちは消費者に対して、私たちが環境に配慮して商品を作っていることを伝えることができます。

原則1: 合法性

- 商業・法人登記
- 土地の所有・使用権
- 納税
- 違法行為への対策
- 汚職防止

原則2: 労働者の権利

- 男女平等
- 教育訓練
- 安全衛生
- 労働災害補償
- 結社自由

原則3: 先住民族の権利

- 先住民との協議
- 伝統的な権利の保障
- 重要な場所の特定・保護
- 伝統的財産の保護

原則4: 地域社会との関係

- 地域の利害関係者
- 地域経済への貢献
- 地域社会との協議
- 公正な取引

原則5: 森林からの便益

- 利用資源の多様化
- 持続可能な資源採取
- 保健食
- 河川・清流の保護
- 観光サービスの提供
- 自然の森の転換の禁止
- 原生林の保護

原則6: 環境

- 環境影響評価
- 自然資源の保護
- 気候変動
- 生物多様性の保護
- 土壌の保全
- 水質の保全
- 自然の森の転換の禁止
- 原生林の保護

原則7: 管理計画

- 資金と方針
- 目標の設定
- 具体的計画の作成
- 管理計画の公開
- 利害関係者の関与
- 結果の公開
- モニタリング実施の記録
- 改善管理

原則8: モニタリング

- 手順、方法の決定
- モニタリング実施の記録
- 分析結果の計画への反映

原則9: 高い保護価値(HCV)

- 利害関係者との協議
- 高い保護価値の調査、特定
- 保護のための方針と活動計画
- HCVモニタリング

原則10: 管理活動の実施

- 更新・改修
- 従来の優先使用
- 遺伝子組み換え生物の不使用
- 肥料、農薬、生物防除剤の制限
- 保護地の管理
- 土壌保全

「FSC認証」は、ドイツの非営利団体であるFSC(森林管理協議会)が運営しています。この団体は、環境団体、林業者、木材取引企業などが参加しており、森林の適切な管理を目指しています。

FSC認証の基準は、「10の原則と70の基準」で、これは社会、経済、環境の視点から作られています。これらの基準は、森林を守るだけでなく、労働者や先住民族の権利、地域社会との関係なども考慮に入れています。つまり、FSC認証は森林だけでなく、人々と地域社会にも配慮したものです。

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(83期)



本社

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動計画
1	CO2排出量	電力使用量の維持	総電力使用量: 27,230kwh	基準年比 95%~105% 25,868kwh~28,591kwh	基準年比 95%~105% 25,868kwh~28,591kwh	①間引き照明を徹底する ②使っていない電気機器の電源オフを実施する ③周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める
		CO2排出量の維持	総CO2排出量: 13.16t	基準年比 95%~105% 12.5t~13.81t	基準年比 95%~105% 12.5t~13.81t	
2	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減	最終処分廃棄物: 1,875kg	基準年比 -5% 1,781kg	基準年比 -2% 1,837kg	①排出量の現状把握と管理 ②使用済封筒・可能な裏紙の再利用 ③印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ④ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP ⑤ゴミ削減(eco)の意識の徹底の為の施策を実施 ⑥据え付け紙コップ使用を最小限に留める/マイボトル、マイ水筒等を使用する
		機密書類溶解廃棄物の削減 シュレッダーの削減 段ボールの削減 古新聞の削減	再資源廃棄物: 1,557kg	基準年比 -5% 1,479kg	基準年比 -2% 1,525kg	
3	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量: 167,000枚	基準年比 -5% 158,650枚	基準年比 -2% 163,660枚	①使用量の現状把握と管理、周知の徹底 ②印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める ③両面、集約等の機能を有効活用 ④印刷した印刷物を必ず回収する
4	CSR活動	83期~85期で提案・実施3件	-	提案3件、実施3件	提案1件、実施1件	①自社発信の活動への参加を検討する ②野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地区におけるCSR活動への参加も検討する

※CO2排出量係数:電気・0.000443/kWh(調整後)、ガソリン・0.00232t/L

※本社専有スペースには上水道がないため、目標を設定していません。共用スペースで使用する上水(洗面所等)は、野村ビルが一括管理しており、当社使用量は把握できません

※本社では、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

※機密書類溶解廃棄物はリサイクルのため「最終処分廃棄物」から「再資源廃棄物」に移行。改めて基準年度(81期)の実績を再計算し、今期目標(83期)を再設定しています

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(83期)



相模原事業所

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容
1	CO2排出量	電力使用量の増加率の削減、原単位の削減	総電力使用量: 6,018,643kwh (原単位 5.260×10^{-2} kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 5.102×10^{-2} kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 5.208×10^{-2} kwh)	製品1本あたりの電気・ガス・ガソリン・軽油使用量及びCO2排出量の削減 ①共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理(夏季26℃、冬季20℃) ②不在時の消灯実施、省エネモードの活用 ③空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄 ④コンプレッサのエアリーク箇所の改善 ⑤社有車のアイドリングストップ ⑥太陽光発電の活用 ⑦空調熱源機の運転調整(夏季) ⑧電気温水器及びウォシュレットの暖房機能停止(夏季)
		電力購入量の増加率の削減、原単位の削減	総電気購入量: 5,617,696kwh (原単位 4.909×10^{-2} kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 4.762×10^{-2} kwh)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 4.860×10^{-2} kwh)	
		ガス使用量の増加率の削減、原単位の削減	総ガス使用量: 368,755m3 (原単位 3.223×10^{-3} m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 3.126×10^{-3} m3)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 3.191×10^{-3} m3)	
		ガソリン使用量の増加率の削減、原単位の削減	総ガソリン使用量: 629L (原単位 5.500×10^{-6} L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 5.335×10^{-6} L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 5.445×10^{-6} L)	
		軽油使用量の増加率の削減、原単位の削減	軽油使用量: 755L (原単位 6.598×10^{-6} L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 6.400×10^{-6} L)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 6.532×10^{-6} L)	
		CO2排出量の増加率の削減、原単位の削減	総CO2排出量: 3,314t (原単位 2.896×10^{-5} t)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 2.809×10^{-6} t)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 2.867×10^{-6} t)	
2	廃棄物	汚泥(充填不良、廃バルク)の削減	総汚泥量: 702,370m3 (原単位 6.139×10^{-3} kg)	597,015kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位 5.218×10^{-3} kg)	667,252kg -5% 基準年原単位比 -5% (原単位 5.832×10^{-3} kg)	製品1本あたりの汚泥量の削減 ①残バルクの削減 ②ロットアウトの低減・改善 ③汚泥のリサイクル(セメント)の実施
		廃プラスチック類の削減	総廃プラスチック量: 22,787m3 (原単位 1.992×10^{-4} kg)	22,787kg -15% 基準年原単位比 -15% (原単位 1.693×10^{-4} kg)	21,648kg -5% 基準年原単位比 -5% (原単位 1.892×10^{-4} kg)	製品1本あたりの廃プラスチック量の削減 ①再資源化の検討 ②不良品廃棄の削減 ③廃プラスチック類のコンパクト化 ④プラスチックのリサイクル(擬木化)の実施

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(83期)



相模原事業所

No.	項目		基準年度(81期)	85期(中期目標)	83期(今期目標)	活動内容
3	上水使用量	上水使用量の増加率の削減、原単位の削減 総上水使用量:	27,939m3 (原単位 $2.441 \times 10^{-4} \text{m}^3$)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 $2.368 \times 10^{-4} \text{m}^3$)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 $2.417 \times 10^{-4} \text{m}^3$)	製品1本あたりの上水使用量の削減 ①効率的なバルク製造 ②節水の実施
4	排水量	排水量の増加率の削減、原単位の削減 下水道排水の削減	51,764m3 (原単位 $4.524 \times 10^{-4} \text{m}^3$)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 3年で(83~85期) -3% (原単位 $4.388 \times 10^{-4} \text{m}^3$)	基準年比 使用量増加率は生産量増加率以下 基準年原単位比 -1% (原単位 $4.479 \times 10^{-4} \text{m}^3$)	製品1本あたりの排水量の削減 ①効率生産による洗浄回数改善 ②節水の実施
5	化学物質の管理	化学物質の現状維持 (PRTR制度対象物質) 化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質)	フッ素関連:21,255kg ポリオキシエーテル:0kg ドデシル硫酸Na:69,919kg	基準年比 ±0% フッ素関連:21,255kg ポリオキシエーテル:0 ドデシル硫酸Na:69,919kg	基準年比 ±0% フッ素関連:21,255kg ポリオキシエーテル:0 ドデシル硫酸Na:69,919kg	製品1本あたりの化学物質使用量の現状維持 ①現状の把握と管理 ②バルクロットアウトの低減・改善
6	物質使用量	コピー用紙の削減 総コピー用紙量:	932,500枚	基準年比 -3%	基準年比 -1%	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)
7	生物多様性	生物多様性保全活動	-	相模事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	相模事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	①地域の活動に参加 ②相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培、新生富士事業所への展開 ③従業員への啓発
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う		-	83期~85期合計10件実施	3件実施	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する ⑤SDGsに関する勉強会に参加する

※CO2排出量係数:電気・0.000443t/kWh(調整後)、ガス・0.00223t/Nm3、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258t/L

※83~85期も増産が見込まれるため、電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量、軽油使用量、CO2排出量、廃棄物、上水使用量、排水量の削減は、原単位(製品1本当たり)に換算して評価する

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(83期)



大阪営業所



No.	項目		基準年度(78期)	85期(中期目標)	83期(中期目標)	活動内容	
1	CO2排出量	電力使用量の維持 CO2排出量の維持	総電力使用量: 6,427kwh	基準年比 95~105% 6,106~6,748kwh	基準年比 95~105% 6,106~6,748kwh	①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理	
			総CO2排出量: 2.147t	基準年比 95~105% 2.039~2.254t	基準年比 95~105% 2.039~2.254t		
2	上水使用量	上水使用量の維持	総上水使用量: 23m3	基準年比 95~105% 21.9~24.2m3	基準年比 95~105% 21.9~24.2m3	節水に心がける	
3	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減または維持 機密書類溶解廃棄の削減または維持 ペットボトルの削減または維持	最終処分廃棄物: 434kg	基準年比 95%~100% 412~434kg	基準年比 95%~100% 412~434kg	①排出量の現状を把握 ②使用済み封筒等再利用徹底 ③印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める ④ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	
4	物質使用量	コピー用紙の削減	総コピー用紙量: 14,795枚	基準年比 -10% 13,315枚	基準年比 -10% 13,315枚	①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等) ④電子ファイル化推進	
5	環境に配慮した製品の開発		開発品目数	-	83~85期で合計3品目	83~85期で合計3品目	①環境に配慮した製品の開発を行う ②取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う ③環境に配慮した原料、資材の使用を推進する ④環境に配慮した製品仕様を検討する

※CO2排出量係数:電気・0.000334t/kWh(調整後)

※大阪サイトでは、化学物質の使用はないため、目標を設定していません

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画(83期)



新生富山事業所

No.	項目		基準年度(81期)	85期(目標)	83期(今期目標)	活動内容	
1	CO2排出量	電力使用量の削減	総電力使用量: 855,615kwh	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 3%削減	以下4項目の施策をしつつ、エネルギー使用量、CO2排出量を毎月測定し、記録する ①不在時と休憩時間の消灯実施 ②使っていない電気機器の電源オフ実施 ③夏季冬季のエアコン設定温度管理 ④社有車のアイドリングストップ	
		プロパンガス使用量の削減	総プロパンガス使用量: 38,038m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 3%削減		
		ガソリン使用量の削減	総ガソリン使用量: 770L	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 3%削減		
		CO2排出量の削減	総CO2排量: 650t	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 3%削減		
2	廃棄物量	廃プラスチックの削減	総廃プラスチック量: 1,415kg (82期)	82期を基準年度 5%削減	82期を基準年度 3%削減	①再資源化の検討 ②不良品廃棄の削減	
3	上水使用量	上水使用量を削減	総上水使用量: 2,436m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 3%削減	①節水の実施 ②上水使用料を毎月測定し管理する	
4	排水量	下水道排水量の削減	総下水道排水量: 2,885m ³	81期を基準年度 5%削減	81期を基準年度 3%削減	①節水の実施 ②下水道排水量を毎月測定し管理する	
5	化学物質の管理	化学物質の使用量の現状維持 (PRTR制度対象物質)	化学物質の使用量: (PRTR制度対象物質) ドデシル硫酸Na:48.36kg	81期を基準年度 ±0%	81期を基準年度 ±0%	PRTR制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、管理する	
6	物質使用量	コピー用紙使用量の削減	総コピー用紙量: 97,000枚	81期を基準年度 1%削減	81期を基準年度 0.3%削減	以下3項目の施策をしつつ、コピー用紙の使用量を毎月記録する ①印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める ②両面・集約等の機能を活用 ③ペーパーレスの推進(FAXのペーパーレス等)	
7	CSR活動	周辺地域のゴミ拾い活動の実施	-	4回/年	活動の継続(4回/年)	活動の継続(4回/年)	周辺地域のゴミ拾い活動をする
8	生物多様性	生物多様性保全活動の実施	-	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコ の育成・栽培、啓発の実施	新生富山事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	

※CO2排出量係数:電気・0.000466t/kwh(調整後)、LPG・0.00655t/m³、ガソリン・0.00232t/L

9. 環境関連法規

82期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。
また、各事業所に対する、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの指導、訴訟及び苦情は有りませんでした。

環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪営業所	新生富山事業所	遵守評価
省エネ法	✓	✓	✓	✓	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	✓	遵守
消防法	✓	✓	✓	✓	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	✓	-	-	-	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	-	✓	-	-	遵守
フロン排出抑制法	-	✓	-	✓	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	-	✓	-	-	遵守
大気汚染防止法	-	✓	-	✓	遵守
水質汚濁防止法	-	✓	-	-	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	-	✓	-	-	遵守
下水道法	-	✓	-	-	遵守
相模原市下水道条例	-	✓	-	-	遵守
下水道法(上市町下水道条例)	-	-	-	✓	遵守
悪臭防止法	-	✓	-	✓	遵守
騒音規制法	-	-	-	✓	遵守
富山県騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等について	-	-	-	✓	遵守
相模原市条例;悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制する地域等について	-	✓	-	-	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)	-	✓	-	✓	遵守
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	-	✓	-	✓	遵守
工場立地法	-	✓	-	✓	遵守
相模原市工場立地法に基づく市準則条例	-	✓	-	-	遵守
労働安全衛生法	-	✓	-	✓	遵守

10. これまでの主な活動実績

10-1. さがみはらSDGs パートナー活動



「SDGsさがみはらエコ宣言登録」



「さがみはら SDGs パートナー」とは、相模原市とともに、SDGsの達成に向けた取組や地域課題の解決、SDGsの普及啓発に取り組む企業・団体等を登録する制度です。

<小学校の副教材「小学生のためのお仕事ノート」>



相模原市の小学3・4年生に配布される小学生のキャリア教育の副読本である「小学生のためのお仕事ノート」に、「日本ゼットック株式会社相模原事業所」が掲載されました。

「小学生のためのお仕事ノート」は地域の企業の仕事を具体的に紹介することで、夢あふれる未来を描くアシストをすることを目的としています。日用品の設計製造に関心を持っていただくとともに、将来について考えるきっかけになってくれると嬉しく思います。

<社会貢献型職域販売「クローズドマート」>



社会貢献型職域販売サービス「クローズドマート」は、食品ロスを削減し、持続可能な開発目標(SDGs)を推進するための取り組みの一つです。

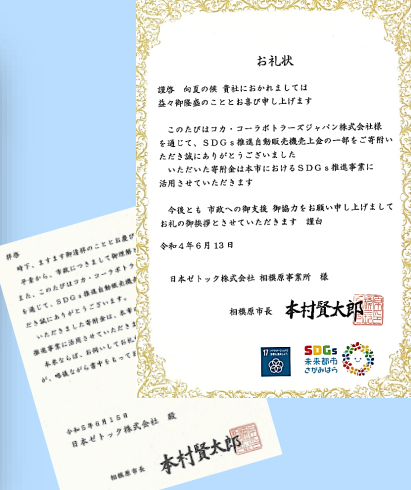


クローズドマートで購入すると食品ロス、処分ロス削減に繋がります。また、売上の一部が途上国の子どもたちの支援にも使われます。SDGs対策を社員参加型で進められるように当社は法人契約し、従業員がお得にお買い物しながら社会貢献できる環境作りと、情報を発信して利用率向上活動にも取り組んでいます。



相模原事業所では、2020年11月に「さがみはらSDGsパートナー」に登録されました。さらに、2021年3月、代表取締役社長より「SDGsの取り組み宣言」が成されました。そして、今期は「SDGsさがみはらエコ宣言登録」の登録証、デジタルロゴ、木製SDGsピンバッジが贈呈されました。

<さがみはらSDGs 推進自動販売機>



「誰もが気軽に SDGs に貢献できる」をコンセプトに「さがみはらSDGsパートナー」である市内の企業・団体が、同じパートナーであるコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と連携したプロジェクト「さがみはらSDGs推進自動販売機」。飲料を購入すると、売上金の一部が市のSDGsの推進につながる事業に寄附されるのでSDGsの推進に気軽に貢献できます。当社では2021年9月10日から設置しており、休憩時間等に多くの従業員が利用しています。今期は、SDGs推進自動販売機設置のお礼状を頂きました。

<相模原市ふるさと納税に参加>



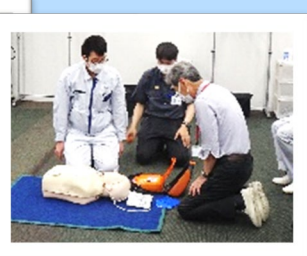
2021年の秋から返礼品リストに弊社の自社ブランド(リセプトスキン3点セットとセルエフ2点セット)が追加されています。

10. これまでの主な活動実績

10-2. 社内の安全衛生と健康経営活動

<AED取扱い説明会(相模原事業所)>

2022年6月3日(金)13:30-14:30 第1・2会議室



セコム警備株式会社 片倉様から、AEDを使った救命の流れ(容態確認～心肺蘇生の手順)と胸骨圧迫(心臓マッサージ)の方法の講習を受けました。救命は1人で行わず、必ず周囲の助けを借りること。人を助ける気持ちを持ち、行動をおこす大切さを学ぶ時間となりました。

<AED取扱い説明会> (新生富山事業所)

2022年11月25日(金)
15:00-17:00テレビ会議室



AEDの取り扱い講習を受けることは、私たち一人ひとりが命を救う力を身につけることができる大切な機会です。突然の心停止は、誰にでも起こり得る事態であり、その時に適切な対応ができるかどうかは、人の命を左右することもあります。私たち自身が命の救助者となる可能性を考えて、AED講習に真剣に取り組みました。



<スマホde東海道五十三次ウォークラリー>

「スマホde東海道五十三次ウォークラリー」は約1か月間、1日8,000歩を目標にチームのメンバーと一緒に、バーチャルで東海道五十三次を巡る歩数イベントです。スマートフォンにアプリをダウンロードすればイベントに参加ができます。



当社からは約90人の参加がありました。開会式ではオンラインでFast Fitness Japan監修の「正しい歩き方」についての説明も受けました。そこから1か月間、アプリで企業対抗やチーム内の順位を意識しながら、楽しく運動不足解消に取り組めました。参加者同士でのコミュニケーションも向上し、とても盛り上がるイベントとなりました。

参加504チーム中ゼトックの順位は124位、1日平均8,000歩をクリアする結果となりました。



健康優良企業



<「けんぽニュース」の削減>

716冊の削減

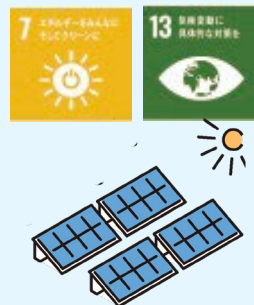


健康保険加入者全員にカラー冊子の「けんぽニュース」が健保組合より発行されていましたが、組合のHPでも見ることができるよう、配布用の冊子が毎回余っていた事を課題と感じていました。そこから年間での余り冊数を参考に、発行部数削減を健保組合へ依頼。あわせてサイボウズにも内容を掲載することで、冊子でなくてもいつでも内容を確認できるようになりました。その結果、右の図の通り削減できております。

カラー冊子	春号	夏号	秋号	新年号	計
変更前(2021-2022)	378冊	381冊	379冊	378冊	1516冊
変更後(2022-2023)	200冊	200冊	200冊	200冊	800冊
削減(A4用紙)	1424枚	1810枚	1790枚	1780枚	6804枚

10. これまでの主な活動実績

10-3. 太陽光発電設備導入(相模原事業所)



相模原事業所では、2021年9月～10月にかけて、屋上への太陽光発電設備の設置工事を行いました。2022年6月から2023年の5月までの平均自家発電率は10.2%、最大自家発電率月は6月で12.9%でした。12ヶ月合計で、637,635kWh(CO2換算で 262t相当)を発電しました。



10-4. エコアクション21 研修



「エコアクション21」に関する講義研修は、第82期には、合計9回実施されました。

エコアクション21の活動に積極的に関わってもらうためにも社内周知は重要です。

新入社員・キャリア入社社員が入社する際には、必ず「エコアクション21」に関する講義研修を実施しております。

10-5. 社会貢献活動

<相模原市仕事と家庭の両立支援推進>

ワークライフバランスに配慮した社会環境づくりのための意識向上を図ることを目的に相模原市が取り組んでいる「仕事と家庭両立支援推進企業表彰」。



2023年3月3日に仕事と家庭の両立支援に取り組む企業として表彰を受けました。

日本ゼットック株式会社 相模原事業所

緑区大山町 1-5



↑リーフレットでもご紹介いただきました。

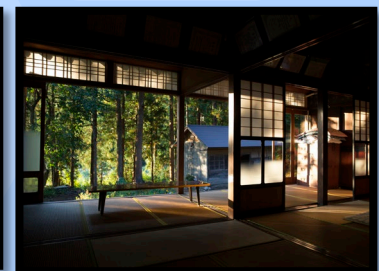
日本ゼットック株式会社 相模原事業所

- ・育児関連の各種制度について、法定の対象年齢から拡大して適用
- ・新型コロナウイルス感染症による小学校等の臨時休業に際し、社員に有給の特別休暇を付与 等

日本ゼットックは、皆さまが毎日お使いになる歯磨き粉や基礎化粧品などの研究開発から生産、販売までを行っている会社です。橋本に構える相模原事業所では、歯磨き粉を年間1億本以上生産しており、業界トップシェアの生産量を誇っています。女性の活躍が多い当社では、ダイバーシティ推進や社員エンゲージメント向上について積極的に推進しています。例えば、妊娠中に医師の指示に従い在宅勤務できる制度や、育児休業中にiPadを支給し会社の情報をチェックできる等、出産前後も安心して働ける体制をとっており、最近では、男性の育児休業取得者も増加してきました。また、復帰後も時短勤務期間を小学3年生修了まで拡充し、更に家事代行サービスの利用代金の一部を会社が負担することによる家事軽減等、長い目で仕事と家庭が両立できる環境づくりを推進しています。今後社員全員が活躍できる環境を整えるべく、働きがいのある会社づくりにチャレンジしていきたいと考えています。

<特定非営利活動法人おおかみこどもの花の家>

富山県中新川郡上市町にある写真の古民家は、映画「おおかみこどもの雨と雪」の舞台モデルとなりました。



古き良き日本の歴史を残した貴重な古民家をなるべく長く残すために活動されている「特定非営利活動法人おおかみこどもの花の家」の活動を日本ゼットック株式会社も賛助会員企業として応援しています。

明治20年の登記なので、140年前から大切に愛されてきた建物です。誰もが楽しめるように公開されていて、お庭を眺めながらお茶を飲んだり、お弁当を広げて食べたり、まるで映画の世界観そのままに、ゆっくりとした時間の流れをお楽しめる憩いの場所となっています。



とおぼえ通信→で情報を発信

←お家では、イベントもたくさん!

子供も大人も楽しそうですね!



10. これまでの主な活動実績

10-5. 社会貢献活動

＜使用済み切手の回収活動（本社、相模原事業所）＞



認定特定非営利活動法人
相模原ボランティア協会

- ・2022年9月26日 5回目の寄付(400g)
- ・2023年4月11日 6回目の寄付(790g)

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、この度は、多数の使用済み切手をお送り下さいまして、心から御礼申し上げます。
頂戴いたしました切手等は換金いたしまして、ボランティア活動（ハンディキャブ等の運行等）に有効に使わせて頂きます。
今後とも宜しくお願い申し上げます。
ありがとうございます。

令和4年9月26日

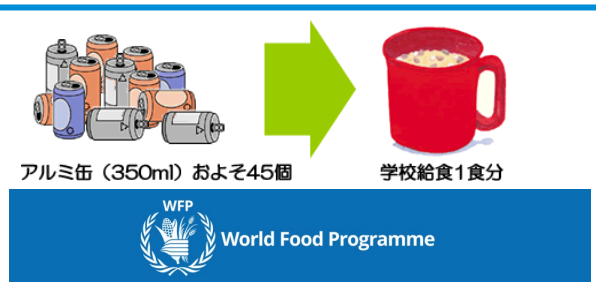
〒252-0236
相模原市中央区富士見 6-1-20
相模原ボランティア協会 切手グループ
電話 042-759-7982



生える、育つ、学ぶ、夢を描く――
「あたりまえ」が叶えられない子どもたちがいる。
どこか遠い世界にはなく、すぐ近くのアジアの国々にも、そこにあるのは、
食べものがない、病気が治せないなど日常の中の困難。
その日常にある、
根本的な原因を見極めなければ、現状は変わらない。
FIDRは国際開発救援財団。
私たちは、
現地の人々と共に変化を生み出していく。
彼らと一緒に変化を生み出していく。
やがて彼らは、自分たちの力で、
よりよい生活をつくりだせるようになる。
そのとき、子どもたちも、
未来の可能性を信じて歩いていけるようになるだろう。
想いを共にして支えあわせる
人の輪は日本にもつながっている。
さあ、あなたもあわせ、
子どもたちの未来を一緒に拓いて。



＜アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動（相模原事業所）＞



2018年からZTCでもアルミ空き缶とペットボトルキャップを回収し、「NPO法人アルミ缶でボランティア」の活動に参加しています。82期は2022年9月21日にアルミ缶81kg(4,860個)で学校給食108人分、ボトルキャップ14kg(6,020個)でポリオワクチン3.5人分を回収して、寄付することが出来ました。これまでの活動でZTCが回収し寄付した総数は、アルミ缶総数:18,066個【401.5人分】、ボトルキャップ総数:517,772個【30.1人分】です。

＜FIDR(国際開発救援財団)の法人賛助会員になりました＞

FIDRは、開発途上国の人々が自立的に発展できるように、教育や開発援助などを行うNGOです。その活動は、「心をあわせ、未来をひらく」をモットーに、現地のニーズに応じた多岐にわたる支援を行っています。また、日本やアジアの国々で起こる自然災害に対する緊急援助事業も展開しており、熊本地震などの際にはその活動が評価されました。ZTCは2022年6月からFIDRの賛助会員となり、保健衛生・医療・栄養・農業・教育・産業育成などの分野で行われるFIDRの活動を支援しています。開発途上国の子どもたちが健康的に成長できる社会の実現に向けて、ZTCはFIDRの活動を全力でサポートしていきます。



「NPO法人アルミ缶でボランティア」は回収したアルミ空き缶を再資源化し、得た売却益を「国連WFP協会(国連世界食糧計画)」に寄付して世界の学校給食を支援する活動と、ペットボトルキャップの売却益を「認定NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会(JCV)」に寄付する活動を行っています。アルミ缶(350ml)およそ45個で、開発途上国の小学校のこどもに1回分の給食を提供できます。ペットボトルキャップ4kg(約1720個)でポリオワクチン1人分を提供できます。



学校給食108人分
【累計401.5人分】



ポリオワクチン
3.5人分
【累計30.1人分】

Npo法人アルミ缶でボランティア
2022年9月28日

いつもご協力いただいている日本ゼットック(株)相模原工場に行ってきました。いつも清潔な工場内に感心させられます。こちらではプレス機があるので集めたアルミ缶をプレスして保管しており、1トントラックで回収に行く身にとってとても助かります。今回もアルミ缶81kg(学校給食108人分) ボトルキャップ14kg(ポリオワクチン3.5人分)を回収しました。ありがとうございました。



10. これまでの主な活動実績



10-5. 社会貢献活動

＜自社販売品 寄付のご報告＞

日本ゼット株式会社では、社会貢献の一環として、自社製品の寄付活動を実施しています。今回の対象は、日本語学校2校、高齢者施設1カ所、障がい者施設7カ所となり、合計10カ所に自社製品を提供しました。寄付した施設からは、喜びの声や感謝のメッセージ、お礼状をいただきました。また、皆さんが喜んでいる様子を伝える写真も送っていただきました。私たちの製品が多くの人々に利益をもたらし、喜んでいただけることは大変嬉しく思います。来期も継続して、このような活動を続けたいと考えています。



日本ゼット株式会社 様
素敵なお品物をありがとうございました!!



感謝のお手紙を頂き、心から感謝しております。寄付を通じて社会に貢献できたことを大変嬉しく思います。これからも、社会貢献活動を続けていき、より良い世界の実現に向けて努力して参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

社長の「おごり」自販機

＜社長の「おごり」自販機＞

【社長の「おごり」自販機】は、社員間のコミュニケーションを活性化し、人間関係や職場の雰囲気をもっと良くするための自販機です。2人が同時にタッチすると、飲み物が1本ずつ無料で受け取れます。これにより、新たな会話のきっかけが生まれ、仕事の生産性の向上にもつながります。



2人で社員証を
タッチすると
飲み物がタダに!



2022年の12月末より、各事業所へ設置したおごり自販機では、3079回の機会が生まれました!

仲間を誘って、ひと息つこう。
他愛のない、おしゃべりが、
いい仕事のキッカケに。



＜「薬用入浴剤 えびすの湯」の寄贈＞

7月、伊勢原協同病院、かみいち総合病院へ「薬用入浴剤 えびすの湯」を各1万包寄贈。病院や上市町役場を介して、介護施設でご使用いただくことになりました!



＜かみいち総合病院(新生富山事業所)の寄贈＞

かみいち総合病院(新生富山事業所)へ自社製品「カバーソックスキープ」と「消毒ハンドミルク」を400セット寄贈。その時の模様が2022年6月18日の北日本新聞に掲載されました。



「上市」 医薬品製造の日本ゼットが、新生富山事業所(上市町三町)は、かみいち総合病院に消毒ハンドミルクなど自社製品400セットを無償提供した。同病院であった贈呈セレモニーで同社の松田英隆取締役執行役員生産本部長が病院職員にセットを手渡し、「新型コロナウイルスと闘っている医療従事者の皆さんに感謝を伝えようと自社製品を用意した」と述べた。同社では健康診断でも同病院を利用しており、浦風雅春病院長は「健康の維持や増進に病院を使ってほしい」とあいさつした。

自社製品400セット
総合病院に提供
日本ゼット

消毒ハンドミルクなどのセットを病院職員(右)に手渡す松田取締役執行役員生産本部長



10. これまでの主な活動実績

10-5. 社会貢献活動

<プラスチックのリサイクル (相模原事業所)>

2021年8月から、相模原事業所はプラスチック廃棄物のリサイクルを始めました。この活動は、神奈川県愛甲郡愛川町の株式会社アクト・エアと共同で行われ、ほぼ100%のマテリアルリサイクル(原料化して再利用可能な状態にし、資源を循環させるリサイクル)を目指しています。このリサイクルプロセスでは、プラスチック廃棄物は焼却せずに破碎、溶融、圧縮成形され、擬木に変換されます。これにより、CO2の排出量が削減されます。さらに、リサイクルされた擬木を花壇用柵プランターとして購入し、79期から当社で行っている「ミシマサイコ」の栽培に使用しています。これは、企業内での循環型リサイクルの一環と言えます。

⇒廃プラをリサイクルし擬木を作る。擬木から花壇の柵を作り再利用することは3R。



擬木を使用したミシマサイコ花壇の柵 (相模原)

擬木「リボワ」

「リボワ」は、フランス語のReBois(再生木)に由来する擬木素材です。このマテリアルリサイクル素材は、サーマルリサイクルの1/7のCO2排出量で生成され、プラスチックの柔軟性と強度を持っています。廃プラスチックから作られ、一般的なコンクリート製擬木の約1/5のコストで提供されています。リボワは再生可能で、ほぼ100%のエコループを実現し、地球環境の保護と経済的なコスト削減に寄与しています。自治体に提供され、地域のリサイクルループに貢献しています。例えば、平塚市高麗山公園(湘南平)の頂上付近にはリボワで作られたベンチがあり、藤沢市では家庭の生ごみを堆肥化するBOXにリボワが使用されています。これらの事例は、リボワが地域社会と環境にどのように貢献しているかを示しています。



株式会社アクト・エアは、地球環境保全を目指し行動する企業です。「アクト」は行動を、「エア」は地球とエコロジーを象徴しています。そのロゴの青色は、美しい空を表現しています。

マテリアル リサイクル (Material Recycle)



マテリアルリサイクルとは、使い終わったものや製品製造過程で生じた不要な部分を回収し、それを新たな製品の材料や原料として再利用するプロセスです。これは材料再生、再資源化、再生利用とも呼ばれます。例えば、飲み終わったペットボトルは圧縮加工され、その後繊維化されて新しい服に生まれ変わります。また、古い木材やプラスチックは粉碎され、再生された後、新しいデッキや木道の素材として再利用されます。これにより、地球の資源を大切に使い、無駄を減らすことができます。これはまさに、廃棄物を新しい価値あるものに変える魔法のようなプロセスと言えるでしょう。

株式会社 関商店

関商店株式会社は、リサイクルを専門とする企業で、主に廃棄物の収集と処理を手掛けています。



その特徴は、これらの廃棄物を新たなエネルギー源に転換することです。関商店株式会社の事業は、産業廃棄物をエネルギーに再生することで、地球の環境保全と循環型社会の形成に寄与しています。

<排水処理汚泥のリサイクル (相模原事業所)>

排水汚泥とは、産業活動から生じる排水を処理する過程で生成される泥状の廃棄物です。工場や下水処理場で発生するこれらの汚泥は、高温で焼却するとセメントの原料に再利用することができます。このリサイクル活動を、相模原事業所では、株式会社アクト・エアと共同で、2022年7月から開始しました。当初は全体の20%の汚泥のリサイクルから開始して、2022年の9月からは100%の汚泥がリサイクルされるようになりました。このようなプロセスは「マテリアルリサイクル」と呼ばれ、原料化して再利用可能な状態にすることで資源を循環させることができます。相模原事業所での汚泥は、現在はセメントの原料として有効に利用されています。



<廃棄バルクのリサイクル (相模原事業所)>

相模原事業所では、歯磨き粉などの期限切れバルクや充填時に余った廃棄バルクも、排水汚泥と同様にセメントの原料としてリサイクルすることができないかを、株式会社アクト・エアと共に探求しており、一部を徐々にリサイクルすることができています。83期では、これらのリサイクル化をさらに推し進めることを目指しています。



<充填不良などのリサイクル (相模原事業所)>

相模原事業所では、毎日の生産過程で、充填不良品や品質管理部で採取される検査用のプラスチック容器に入った歯磨き粉など、「検査用検体」の廃棄物が生じています。これらの歯磨き粉とチューブやプラスチック容器が混在した廃棄物についても、リサイクルの可能性を探求しています。具体的には、株式会社関商店の協力を得て、サーマルリサイクルという形で、これらの廃棄物を全体としてリサイクルできないかを調査しています。83期には、このような廃棄物も可能な限りリサイクルできるように、検討を進める予定です。

サーマルリサイクル (Thermal Recycle)



サーマルリサイクルとは、ゴミを燃やす際に発生する熱エネルギーを再利用することで、エネルギーを効率的に使うリサイクルの一つです。この熱エネルギーは、電気を生成したり、建物を暖めたり、温水プールに利用したりすることが可能です。しかし、欧米ではリサイクルの概念に「燃焼」を含めないため、「サーマルリサイクル」をリサイクルととらえないこともあります。それでも、サーマルリサイクルはゴミを資源として再利用し、地球環境を守るための一つの方法と言えます。



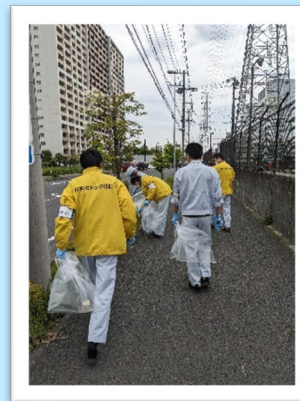
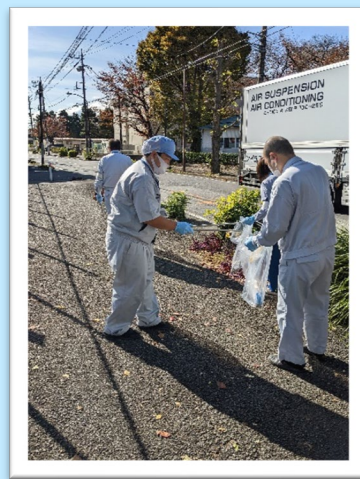
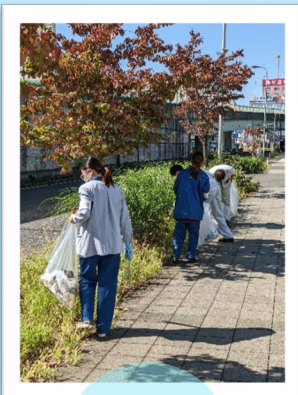
10. これまでの主な活動実績

10-5. 社会貢献活動

<CSR活動報告 地域清掃(相模原事業所、新生富山事業所)>

地域清掃は、企業が社会貢献活動(CSR)の一環として行う活動の一つです。これは、企業が自社の事業所周辺や地域社会の公共の場でゴミ拾いや清掃活動を行うもので、地域社会との関わりを深め、地域の美化と環境保全に貢献することを目指しています。この活動は、企業の社会的責任(CSR)を果たすための重要な取り組みであり、地域社会との良好な関係を築くための一助となります。また、従業員が直接地域社会のために貢献することで、社員のモラル向上やチームワークの強化にもつながります。地域清掃活動は、企業が地域社会と共に成長し、持続可能な社会を実現するための一歩と言える活動です。

相模原事業所では、2016年から地域貢献活動として近隣の歩道でゴミ拾いを行っており、82期には2022年10月20日、11月22日、2023年4月25日、5月24日の4回、合計約4時間の活動が行われました。新生富山事業所でも、地域清掃の一環としてゴミ拾い活動が行われています。82期には、2022年10月13日、11月9日、2023年4月20日、5月11日の4回、各回1時間の活動が行われました。これらの活動は、地域の美化と環境保全に貢献しています。



<献血(相模原事業所)>



2022年12月19日に、神奈川県赤十字血液センター主催の献血が行われました。このイベントは、9:30から12:30、そして14:00から16:00までの2回に分けて開催され、場所は正面玄関と第1・2会議室でした。医師1名、看護師3名、事務員4名が参加しました。初めて献血を行う方などは、受付をスムーズに行うために「受付確認票」に事前に記入しました。具体的な流れとしては、まず第2会議室で受付(名前、年齢などの記入)、次に第1会議室で医師の問診、その後バス内で血液検査、再度問診、採血、そして最後に献血後の説明と粗品の受け取りが行われました。このイベントは新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら実施されました。献血には、35名の参加者があり、そのうち26名が献血を行いました。具体的には、200mlを献血したのは6名、400mlを献血したのは20名でした。体調不良や気分が悪くなった参加者は特にいませんでした。



献血の目的は、輸血が必要な患者さんの命を救うことです。血液は人工的に作ることはできず、長期保存も難しいため、健康な人々が自分の血液を提供することで、必要な血液を確保し、多くの命を救うことができます。献血は社会貢献の一部であり、参加者自身の健康維持にも役立ちます。献血行為は、誰かの大きな希望となり、生命を救う可能性があります。これからも、貴重なご協力をお願い申し上げます。

10. これまでの主な活動実績



10-6 生物多様性の保全活動(絶滅危惧植物の保護活動)



【ミシマサイコと相模原の関わり】

相模原市は、かつて相模野台地と呼ばれる広大な原野が広がっていました。その中には、「柴胡が原」と名付けられたミシマサイコの自生地が存在していました。夏には黄色い花が一面に広がり、秋にはその根が貴重な漢方生薬・柴胡の原料として採取されていました。しかし、1900年代から都市化が進行し、1950年代には都市化と工業用地化の影響で自然環境が大きく変わってしまいました。その結果、相模原市内で自生のミシマサイコを目にすることができたのは、1955年頃が最後だとされています¹⁾。

¹⁾「ミシマサイコという薬草を知っていますか！ 相模原柴胡の会(Sagamihara Saiko Association)」
<<https://main-townguide.ssl-lolipop.jp/saiko/index.html>>

【相模原柴胡の会との関わり】

「相模原柴胡の会」は、生物多様性に関する法律を遵守しつつ、ミシマサイコの育成と栽培を行い、その普及と啓発を目指す団体です。また、相模原市の環境保全とイメージ向上にも貢献しています。私たちの相模原事業所では、毎月この団体の活動に有志を募って参加していました。しかし、今期は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら活動を一時停止せざるを得ませんでした。しかし、徐々にコロナも落ち着いてきたので、来期には再び活動に参加したいと考えています。



【上市高校訪問(ミシマサイコ)】



上市高等学校ミシマサイコの試験栽培場



2022年8月25日(木)に、日本ゼトック株式会社のエコアクション委員である金岡さん、武岡さん、小林さんは富山県立上市高等学校を訪れ、石黒友一先生からミシマサイコの育て方を学びました。学校の試験栽培所を見学させていただき、栽培方法についての有益な情報を得ることができました。また学校側からはミシマサイコの花を使った石鹸などの商品化についてのアイデアをいただきました。今のところ、実現するのは難しいかもしれませんが、新たな視野を頂き、ミシマサイコの栽培に対する意欲を高めました。ありがとうございました。



育苗ポット



成長したミシマサイコ



水中曝気装処理

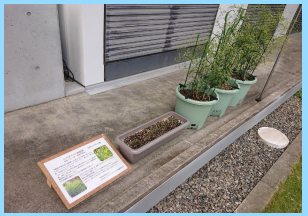


石黒先生(中央)



【相模原事業所敷地内(ミシマサイコ群生地の一つであった大山工業団地)での育成・栽培】

相模原事業所の敷地内で、ミシマサイコの種を植えて育てる活動が行われました。2022年3月に種をプランターにまいたところ、6月初旬には発芽し、夏には見事に成長しました。その美しさで、事業所を明るく彩りました。秋から冬にかけて、さらに大きく育ったミシマサイコは、11月に花壇に移植されました。



2023年1月には葉が枯れましたが、根元は緑色を保ち、春には再び新緑の葉が生えてきます。このような経験を通じて、自然とのつながりを深め、生命の尊さを再認識することができました。今期も2023年3月に、ミシマサイコの種をプランターにまき、育成・栽培を開始しました。

10. これまでの主な活動実績



10-6 生物多様性の保全活動(絶滅危惧植物の保護活動)

【相模原事業所:従業員に苗を配布】



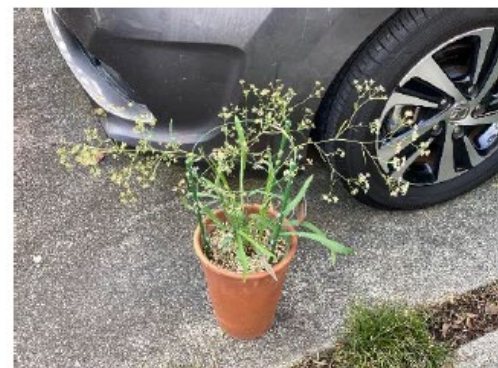
2, 3号棟玄関先の配布の様子



1号棟玄関先の配布の様子



配布前の苗



従業員が育てたミシマサイコ写真

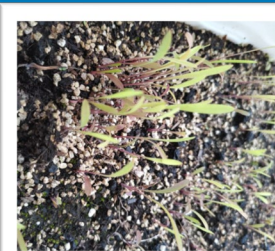
2022年9月29日に従業員に苗を配付しました。たくさんの方が、興味をもって参加してくださりうれしかったです。このような経験を通じて、保護活動を広げていきたいと考えています。今期も2023年3月に、ミシマサイコの種をプランターにまき、育成・栽培を開始しています。



こんなに大きく育ったとご自宅のお写真を頂きました！ありがとうございます。のびのびと、元気に育ってくれてうれしいです。



【新生富山事業所:ミシマサイコの育成】



小さいけど元気に育っています

新生富山事業所でも、生物多様性の保全の一環としてミシマサイコの育成に、取り組んでいます。元気ではあるのですが、相模原ほど大きくは育ちませんでした。上市高校で育て方のコツを教えてもらったり、富山県薬用植物指導センターに相談しており、来年に向けどうすれば大きく成長してくれるか研究中です。今後も継続して保全活動に取り組んでいきたいと考えています。

【本社:ミシマサイコの育成】



本社でも、ミシマサイコの活動を知ってもらうために、相模原事業所で育てたミシマサイコの株を分けて、本社でも育てています。建物内なので難しい面もありますが、様々な工夫を試しています。

10. これまでの主な活動実績

10-7 緊急事態への準備及び対応

<避難訓練(相模原事業所)>

安全衛生委員会の各委員が、2022年12月1日から2023年1月31日までの期間に、相模原事業所の従業員を対象に、地震を想定した避難訓練を行いました。訓練内容としては、避難経路の確認、避難経路上の障害物の確認、ランタンの設置場所と使用方法の確認、防災ヘルメットと防災頭巾の設置場所の確認を行いました。



調剤ユニット避難訓練経路確認風景



包装ユニット避難訓練経路確認風景



購買部避難訓練経路確認風景



生産管理グループ避難経路確認風景



物流グループ避難訓練経路確認風景



管理グループ避難経路確認風景



品質管理部避難訓練経路確認風景



研究本部避難経路確認風景



信頼性保証部避難経路確認風景



<避難訓練(本社)>

新宿野村ビルの管理会社は、2022年の10月18日と2023年の3月8日に避難訓練を行いました。これらの訓練は、災害発生時の避難ルートの確認、パニック状態を抑える方法、そして緊急事態に対する手順の確認を目的としています。これらの訓練は年に2回、春と秋に実施されています。



<避難訓練(新生富山事業所)>

新生富山事業所では、2022年10月31日に全従業員を対象に地震を想定した避難訓練が行われました。訓練は避難経路の確認と避難訓練で、避難時間は約10分でした。訓練開始時には社内電話で地震発生を知らせ、避難は各部署で行われました。避難時にはヘルメットや防災頭巾を着用しました。



11. 代表者による全体の評価と見直し・指示

<全体の評価>

2023年6月1日に、神保社長の後任として社長に就任することになりました。環境経営についても引き続き推進していく予定です。

82期の前半は、新型コロナウイルスへの対応に追われました。しかし、2023年2月頃から徐々に平常に戻り、5月のコロナウイルスの5類への移行をもって、概ねコロナ禍以前の状態に戻りました。一方で、リモートでの会議やセミナー受講等は定着し、効率化が進んでいると感じています。

81期の後半に発生したロシアによるウクライナ侵攻に伴う原油価格の高騰と、それに起因する原材料の値上げは、82期も対応に苦労しました。来期も地政学的リスクに悩まされることになるでしょう。

81期に始めた、一部チューブの内製化については順調に進んでおり、経費削減や効率化に繋がると共に、将来的には、環境への配慮が成されたチューブの開発ができることを期待しています。2022年にはプラスチック資源循環促進法が施行され、当社が所属する業界団体においても基準の作成を行っています。

相模原事業所では、生産数量の増加に伴い、電力、ガス、ガソリンの使用量の増大が続いており、二酸化炭素排出量の増大を招いています。一方で、前期に設置した太陽光発電設備により、今期は約64万kWhの自家発電が可能となりました。これは自給率にして10%強に相当するため、大きな効果があったと感じています。廃棄物については、プラスチックと汚泥のリサイクルを開始したことで、大きな廃棄削減効果を得ることができました。

本社では、掲示等を通しての意識啓蒙により、廃棄物廃棄量とコピー用紙使用量が大きく削減されました。来期以降も廃棄物を出さない、紙を使用しない習慣の継続を期待します。

大阪営業所についても、コピー用紙の使用量が大幅に削減されました。本社同様、この良い習慣を継続してもらいたいと思います。

新生富山事業所では、若干生産量が減少したことに伴い、エネルギー使用量も若干削減されました。一方でGMP関連書類の作成が多く、コピー用紙使用量は大幅に増えてしまいました。今後は、記録類の電子化などを検討する必要があるでしょう。

<見直し・指示>

相模原事業所には、各棟の効率的な稼働による、原単位でのエネルギー使用量等の削減を目指すようお願いしました。

本社と大阪事業所には新しい取り組みを考えるようお願いしました。

新生富山事業所には、過去の実績を見ながら、エネルギー使用量の削減とコピー用紙使用量の削減に努めるようお願いしました。

また全体を通しては、2024年には電子帳簿保存法も完全施行されることも踏まえ、データベース化、書類の電子化等のDXを進めるようお願いしました。

サステナビリティ経営(環境・社会・経済の持続可能性への配慮により、事業の持続可能性向上を図る経営)への関心が高まっています。ここ数年世界は、異常気象や新しいウイルスの蔓延、地政学的リスクに伴うエネルギーや資材の高騰など、想定外の事象が続いています。このようなVUCAな時代を生き抜くためには、SDGsを意識しつつ、サステナビリティ経営の推進が必要です。

当社においても、社会への貢献と環境への負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築、人財の活用を行いながら、それと同時に、またそれを利用して企業価値を高め、持続的競争優位の確保を進めていきたいと考えています。

環境負荷低減については、「エコアクション21推進委員会」と特定事業者としての活動を行なう「省エネルギー推進委員会」が協力し、リーダーシップをもって、より一層従業員に省エネや環境への配慮の必要性を浸透させることを期待しています。

2023年 7月 1日
代表取締役社長 森山 正孝

<環境経営方針及び実施体制の見直し>

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	無	現時点での環境経営方針自体の見直しは不要。
実施体制	無	現時点での実施体制の見直しは不要だが、組織変更があった際は、適宜体制や委員の見直しを検討すること。



ZTC
日本ゼトック

Clean Green 幸せ化学
Sustainable



さがみはら
SDGs
パートナー
さがみはら 2023年 8月 31日

作成日:2023年8月31日